AL09　日中教育友好の架け橋構築
Building an Educational Friendship Bridge between Japan and China

貴志　豊和（Toyokazu KISHI）
中国瀋陽薬科大学／哈爾濱医科大学（Shenyang Pharmaceutical University and Harbin Medical University, China）

1. 略歴：貴志豊和は1930年中国の炭鉱、重工業都市撫順で生まれ、1943年大連一中に入学、1945年敗戦時は勤労動員中の3年生でした。戦後は国共内戦の困難な生活環境を体験し、1947年内地に引揚げ、戦後の食糧難、住宅難のなかアルバイトをしながら、1954年東大薬学科を卒業、1956年修士課程を修了後、武田薬品研究所に就職、薬学博士取得後スイス政府奨学生となりチューリッヒ大学有機化学教室にポスドクとして留学し、帰国後武田薬品の化学研究所、醗酵生産物研究所を経て生薬研究所長を務め、ビタミン、抗生物質、漢方薬の研究に従事しました。この間東大、千葉大、名古屋市大、富山医薬大，熊本大、静岡県立大の非常勤講師、日本薬学会理事会監事、武田薬品理事を務めました。

   1990年武田薬品を定年退職後国立循環器病センター内生体機能研究所に勤務、1994年同所を退職。1995-6年中国天津薬品検査所にJICA専門家として勤務。1998年瀋陽薬大、ハルピン医大の客員教授に就任し、2004年遼寧省人民政府から「外国人専門家栄誉賞」を受賞。2007年中華人民共和国大阪駐在總領事館から中国人留学生支援の「友好人士」表彰を受賞しました。

2. 学術講演、講義

   日中国交回復後1980年武田薬品中国視察団の一員として大連、瀋陽、北京、上海を訪問し、各地で講演しました。1998年以後は瀋陽薬大、ハルピン医大で毎年2ヶ月間渡航費自己負担で訪中し、学部日本語クラスに薬学専門用語と創薬の研究開発の講義。大学院生に「世界製薬企業の現況と新薬」「話題の新薬の研究開発」の講演を行って来ました。今年で16年目になります。これら創薬に関する講演は各地の14大学、6研究所，3薬品検査処、9製薬会社でもボランティアで行ってきました。

3. 技術指導

   生体機能研退職後、日中友好の架け橋になりたいと考え、1995-96年JICA（厚生省）専門家として天津薬品検査所に6ヶ月勤務。厳しい労働環境下品質管理の指導を担当しました。

4. 貴志奨学金

   戦前,戦中かって行った日本の贖罪の意味を込めて1998年以後瀋陽薬大選抜の日本語クラスの成績優秀な低所得家庭の学生に、当初は大学から支給された滞在費1ヶ月分を奨学金として手渡しました。2006年以後は2名に増やし、大学の証書と共に手渡しています。貴志奨学生は学内誌に報道され、2012年までに合計20名になります。貴志奨学生のうち2名は日本の大学院に留学し、2名は在中国の日本企業に就職しています。

5. 日本留学

   瀋陽薬大では入学試験時成績優秀な学生を日本語クラスに入れ1年間日本人教師により日本語を修得させ、大学専門課程の薬学講義も日本語で行っています。私はこれら日本語を学んだ優秀な学生の日本大学院進学を奨励し、面接して日本の大学院教授への問合せ、直接面談依頼、紹介、推薦、奨学金推薦などの相談や交渉を自費で行い、著明国立大学院への入学実現に尽力し、約40名成功して来ました。また留学中のトラブル解決に尽くして来ました。彼等は勉学に励み，専門家として将来に希望をもって歩んでいます。就職先は日本、中国、米国の大学、企業、国家機関などです。留学生中1名は中国で教授に、1名は日本で教授になっています。

6. 就職

   瀋陽薬大は学生の就職斡旋は行っていませんが、日本語クラスの学生は日系会社への就職希望者が多く、私は紹介、推薦して約30名が就職しました。将来日中友好のため彼等の活躍を期待しています。

7. 現地生活と感謝

   現地での生活や講義は社会的インフラや文化の違いから楽ではありません。大学は応接セットや台所、浴室，洗面所、寝室付きの綺麗な宿泊室を提供してくれています。滞在中は三食自炊、掃除、洗濯、ショッピングなど自分で行って来ました。教材の作成、印刷、郵送などは全て自費負担です。国民性の違いから約束を守らない学生も度々あり、日本の先生方に大変ご迷惑をおかけしました。お詫びする次第です。

   しかし、私は中国人学生の熱心な向学心や日中両国の大学関係者や古い友人達の温かい支援に支えられて訪中を継続することが出来ました。企業出身者にも拘らず薬学会教育賞を与えられることを日本薬学会に心から感謝しています。日中国際関係が暗い中、彼等が将来日中友好の架け橋となってくれることを念願しています。